

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

目標指標について、「歩行者・自転車通行量（休日）」は前回調査を大きく下回り、「居住人口」は増加する結果となった。

通行量については、中心商店街の台所として市民に親しまれてきた老舗デパートが平成22年8月末をもって閉店したことに伴い、地元商店街振興組合では、顧客・賑わいを取り戻そうと、空き店舗を活用した直営のミニスーパーを平成22年12月20日にオープンさせたが（紺屋町商店街整備事業の進捗により、平成23年11月末閉店）、老舗デパート閉店前の賑わいには至らず、通行量の著しい減少に繋がったと考えられる。

しかし、現在、事業の進捗を図っている民間発のハード事業である紺屋町商店街整備事業において、地産地消の食材を取り揃える産直市や、新たな集客施設として、食に重点を置いたテナントミックス施設を整備する予定としていることから、同事業による魅力の向上により、中心市街地内だけでなく周辺地域からの誘客に伴う通行量の増加が見込まれる。そのため、今後は、レンタサイクル事業やアクアトピア悠歩事業などの回遊しやすい取り組みとの連携により活性化を図っていく必要がある。

一方、居住人口については、大きな住宅供給がなかったにもかかわらず、前年度より増加しており、また、紺屋町商店街整備事業においても住宅整備が計画されていることから、今後も事業効果の発現が見込まれる。

基本計画掲載事業は、ほぼ計画どおりに実施されており、総事業45事業のうち、11事業が完了、ソフト事業など16事業が実施中、工事など13事業が着手中、5事業が未着手である。特に、目標達成への大きな事業効果の発現が期待される紺屋町商店街整備事業については、A地区、B地区、E地区は平成23年度に既存建築物の取り壊し、実施設計等を行い、C地区、D地区、アーケード整備は実施設計を行い、事業計画をまとめた。

中心市街地の活性化を図っていくためには、それぞれの事業の連携を図っていくとともに、ソフト事業を駆使していく必要があり、今後においても計画掲載事業を確実に実現し、民間事業者や中心市街地活性化協議会等の新しい動きを着実に活性化へ繋いでいけるよう、関係者との連携を図りながら目標の達成に向けて努力していく。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
賑わいと回遊性の向上	歩行者・自転車 通行量(休日)	8,449 人 (H19)	10,000 人 (H24)	7,316 人 (H23)	①	①
まちなか居住の推進	居住人口	8,873 人 (H19)	9,100 人 (H24)	8,968 人 (H24)	①	①

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

(1) 歩行者・自転車通行量(休日)について

年間目標10万人を大きく上回る利用者(平成22年度の利用者423,005人)がある地域交流情報センター(新図書館)を含めて巡るアクアトピア悠歩事業や、平成23年4月から開始されたレンタサイクル事業などとの連携により、新しく生まれ変わる紺屋町商店街をはじめ、中心市街地内への回遊性が向上し、総合的な事業効果が発現することが見込まれるため、目標達成は可能であると考えます。

(2) 居住人口について

平成23年度においては、前年度より増加していることや、今後、紺屋町商店街整備事業による住宅整備も計画されていることから、同事業による新たな居住スペースが計画どおりに供給されれば、事業効果が更に発現すると見込まれるため、目標達成は可能であると考えます。

中心市街地への居住を求める要因として、中心市街地には、市役所等の官公署、医療・福祉施設や教育施設、都市公園など、多くの都市機能が集積していることや、郊外に比べて駅や病院などに近いことなど、立地条件に優れていることが住みやすいまちとなり、居住に繋がっていると考えられる。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップと同じ見通し(①)のため、特になし

5. 今後の対策

基本計画掲載事業を確実に実現していくとともに、必要に応じて、基本計画への事業の追加を検討していく。

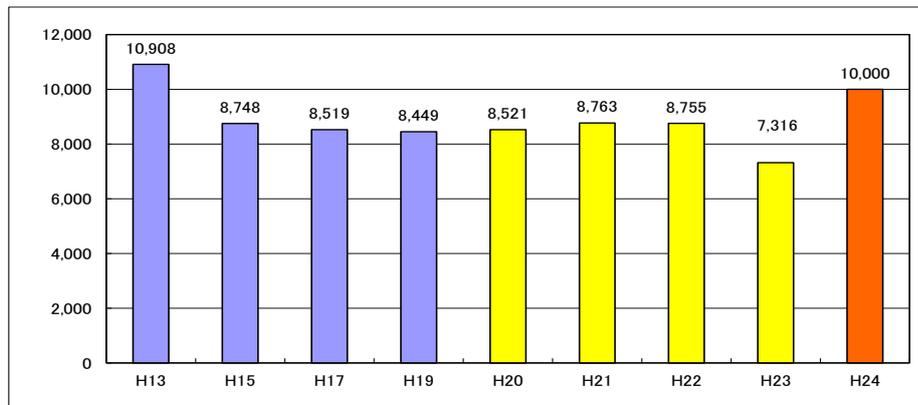
引き続き取り組んでいる紺屋町商店街整備事業の内、A・B・E地区の住宅整備事業やC・D地区のテナントミックス事業により空地や空き店舗の減少をさせ、居住者や通行量の増加をはかる。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果『目標 「賑わいと回遊性の向上』』

目標指標 「歩行者・自転車通行量(休日)」 ※目標設定の考え方基本計画 P55～P60 参照

1. 調査結果の推移

西条商店街歩行者・自転車通行量（6地点・休日）の推移



年度	人/日
H19	8,449 (基準年値)
H20	8,521
H21	8,763
H22	8,755
H23	7,316
H24	10,000 (目標値)

※調査方法;歩行者・自転車通行量調査(毎年度8月実施)

※調査月;平成23年8月27日実施、9月取りまとめ

※調査主体;西条市

※調査対象;休日(10時～18時まで)の西条商店街6地点(6つの商店街の中心地点)の歩行者及び自転車の通行者(合計値)

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西条紺屋町商店街整備事業（西条紺屋町商店街振興組合）

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	<p>西条紺屋町商店街をA地区からE地区までの5つの地区に分けて整備するとともに、アーケードについても、現アーケードを取り払い整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A地区：店舗、住宅整備 ・B地区：店舗、住宅整備、駐車場整備 ・C地区：店舗（産直市、食堂等）、駐車場整備 ・D地区：テナント、公園、駐車場整備 ・E地区：医療施設、住宅整備、駐車場整備
事業効果又は進捗状況	A地区、B地区、E地区については、実施設計及び解体工事を行い（国土交通省の交付金を活用）、C地区、D地区、アーケードについては、実施設計を行った。（C地区、D地区は、愛媛県の補助事業を活用）

②. 空き家情報発信事業（西条市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	<p>中心市街地の空き家状況を調査し、市のホームページにより空き家の活用に向けた情報発信を行うとともに、問い合わせに対しては、個別に相談を行うなど、積極的な対応に努める。</p>

事業効果又は進捗状況	<p>えひめ移住交流促進協議会（県内全市町が参画）において、全県を対象とした空き家情報バンクの整備を行い、平成21年4月から公開しているところ。これを活用して、空き家情報を一元的に提供する。中心市街地の空き家状況については、今後、宅建業者とも連携しながら把握に努め、同バンクに掲載していく予定。</p> <p>問い合わせについては、個別に対応している。（計画認定後～平成23年12月末までの相談件数は14件）</p>
------------	--

③. レンタサイクル事業（西条市観光協会、西条市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	J R伊予西条駅隣にオープンした「鉄道歴史パーク in SAIJO」への来訪客を、中心市街地内へ引き込むために、J R伊予西条駅に隣接する「鉄道歴史パーク in SAIJO」内の市観光協会において、自転車の貸し出しを実施する。
事業効果又は進捗状況	<p>J R伊予西条駅に隣接する「鉄道歴史パーク in SAIJO」内の市観光協会において、平成23年4月1日から自転車の貸し出しを実施している。</p> <p>事業開始から現在（平成24年3月末時点）までに、220台の利用があった。</p>

④. アクアトピア悠歩事業（西条市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	<p>J R伊予西条駅隣にオープンした「鉄道歴史パーク in SAIJO」や、平成21年6月にオープンした地域交流情報センター（新図書館）を訪れる観光客や市民を街なかへ誘導し、ゆったりと回遊してもらうための「西条水めぐりマップ」を配布する。</p> <p>回遊にあたっては、約2時間の回遊ルートを設定し、商店街やアクアトピア水系を中心とする施設等を案内する。</p>
事業効果又は進捗状況	<p>街なかをゆったりと回遊してもらうための「西条水めぐりマップ」を作成し、平成20年5月から「鉄道歴史パーク in SAIJO」を発着点に、アクアトピア水系や商店街を回遊するコース（約2時間）で、現在11名のガイドが、観光客や市民を案内している。</p> <p>事業開始から現在（平成23年12月末時点）までに、781名の参加者があった。（うち、平成23年度（4月～12月）参加者は141名）</p>

⑤. （仮称）祭り会館整備事業（西条市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	地域の文化である「だんじり」をテーマとした体験型施設の整備
事業効果又は進捗状況	当初は旧鷹丸体育館をリフォームし、「だんじり」等をテーマとしたお祭り会館として整備する予定であったが、旧鷹丸体育館の老

朽化が著しいこともあり事業の再検討を行った。その結果、旧鷹丸体育館の撤去及び跡地を含めた西条市民公園の再整備を行うこととし、平成 23 年度は旧鷹丸体育館の取り壊しを行った。
 (平成 24 年度に体育館跡地を含むエリアの工事着手、平成 25 年度に工事完了の予定)

⑥. まちかど博物館整備事業（西条商店街まちづくり協議会）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	西条まっりの観光ブランド化を推進するため、祭りの魅力を全国に情報発信するとともに、観光客の誘客活動を展開するなど、観光資源のインパクトが高まっている中で、「西条まつり」をより知ってもらうため、商店街の個店の店先や空き店舗などを活用して、町内のだんじりの下絵や彫刻などを解説付きで展示する。
事業効果又は進捗状況	西条紺屋町商店街並びに隣接する東町商店街における再整備の進捗状況を踏まえながら、事業実施について検討中。

⑦. 地域交流情報センター（新図書館）整備事業（西条市）

事業完了時期	【済】平成 21 年 3 月
事業概要	地域交流情報センター機能のある図書館を整備
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度の利用者は 423,005 人で、当初の年間利用予定者数 10 万人を大幅に上回っていることから、賑わいの再生に大きく貢献している。(平成 23 年 8 月には入館者 100 万人を突破) しかし、平成 21 年 6 月のオープン後、目標指標として掲げている「歩行者・自転車通行量（休日）」の回遊が見込まれる 3 地点においては、前回調査 (H22: 4,906 人) と比較して、1,125 人減少 (H23: 3,781 人) しており、老舗デパート閉店の影響が大きいものと考えられる。

⑧. 地域交流施設整備事業（西条市）

事業完了時期	【実施中】平成 24 年度
事業概要	旧図書館を取り壊し、地域交流施設として整備
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度に実施設計、建物（旧図書館）の取り壊しを行い、平成 24 年度に建築工事を行う予定。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

紺屋町商店街整備事業において住宅整備（予定戸数 100 戸）が計画されていることから、同事業による新たな居住スペースが計画どおりに供給されれば、同商店街に整備予定のテナントミックス施設や産直市との相乗効果が発現すると見込まれる。

また、他の主要なハード事業である地域交流施設整備事業については、本市出身の彫刻家の作品展示や市民ギャラリーとして整備予定である。また、旧鷹丸体育館跡地の整備については、市民参加の

ワークショップで検討を行っているところである。

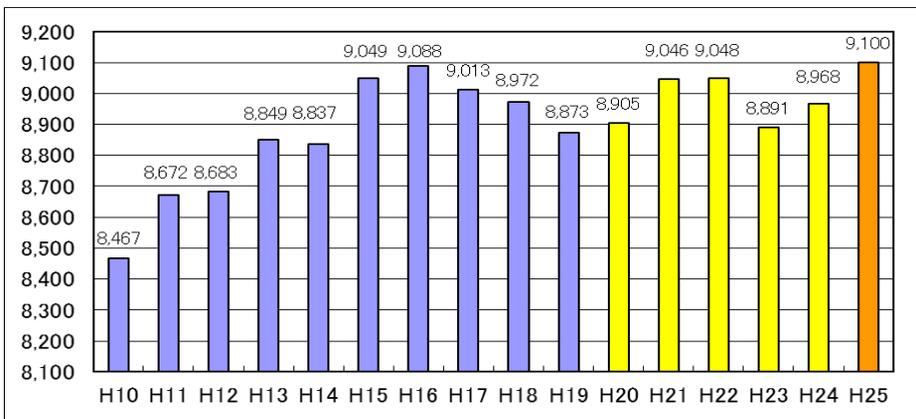
これらのハード整備事業と併せて、四国鉄道文化館、十河信二記念館、西条市観光交流センターとの連携を強化しながら、現在実施中のアクアトピア悠歩事業やレンタサイクル事業などの回遊しやすい取り組みとの連携により、来街者の商店街利用を促進することができることから、目標達成は可能であると見込まれるため、今後においても、これら事業の促進に向けて進捗管理していく。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果『目標 「まちなか居住の推進」』

目標指標 「居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P63～P65 参照

1. 調査結果の推移

中心市街地の居住人口の推移



年	人
H19	8,873 (基準年値)
H20	8,905
H21	9,046
H22	9,048
H23	8,891
H24	8,968
H25	9,100 (目標値)

※調査方法; 中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

※調査月; 平成 24 年 3 月末時点調査、4 月取りまとめ

※調査主体; 西条市

※調査対象; 中心市街地内居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 西条紺屋町商店街整備事業【再掲】P3 参照
- ②. 空き家情報発信事業【再掲】P3～P4 参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地には、市役所等の官公署、医療・福祉施設や教育施設、都市公園など、多くの都市機能が集積していることや、郊外に比べて駅や病院などに近いことなど、立地条件に優れていることが、居住人口の増加に繋がっていると考えられる。

そのため、紺屋町商店街整備事業において計画している住宅整備(予定戸数 100 戸)による新たな居住スペースが計画どおりに供給されれば、目標達成は可能であると見込まれるため、今後においても、これら事業の確実な実施に向けて進捗管理していく。